

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	4	名称	歴史文化を活用する観光の振興			
主担当部	総合政策部		主担当課	観光課	部長名	杉田幸司	
関係部			関係課	企画政策課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	本市が持つ豊かな歴史文化遺産と優れた文化的景観を観光に積極的に活用し、本市への来訪者を増加させる。他の地域の人々との交流やふれあいの機会が増えることにより、まちの賑わいや活気が生み出され、市民の間に自分のまちへの誇りと愛着がめばえる
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	<p>中南和地域には世界遺産にも匹敵するような多くの文化遺産が存在するが、多くの市町村に分散しているため、効果的な活用が行われていない状況にある。自治体の枠を越えた中南和地域の魅力を共有し合うことが重要である。一体化・広域的な観光展開が実施し、宿泊等を伴う滞留時間の長い観光コースの開発に共同で取り組む必要がある。</p> <p>平成32年の日本書紀編さん1300年まで間、奈良県で展開される記紀万葉プロジェクトに合わせた息の長いPRが求められる。</p> <p>名勝指定及び世界遺産候補地に選定された大和三山を巡る観光コースの需要は高く、特に香具山周辺は藤原宮跡からも近く、また多くの観光資源が存在するため、地元をも巻き込んだ新たな観光開発が有望である。</p>	<p>日本を訪れた外国人は、この10年間で1.6倍にもなり、ついに昨年1000万人の大台に到達しました。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」を策定する等、2000万人を目指すための環境整備が進められています。</p> <p>八木駅前に開設した観光交流センターは開館3年目に入り、中和幹線沿いには新たに全国最大規模のファーマーズマーケットが開設、本市を拠点とする中南和の一体的な観光展開には追い風となっている</p>
これまでの成果	<p>中南和広域観光協議会については構成市町村の観光地を巡りながら4回の会議を実施、一体感が醸成されつつある。緊急雇用補助金を活用し、中和観光データベースの構築と各市のPR用バナー・ポスター及び中和地域PR用ポスター・パンフレットを作成した。竹内街道・横大路敷設1400年にあたり、新たに大阪府下の自治体との交流も行われ、国際シンポジウムを開催した。観光交流センターは開館3年目にもかかわらず順調に来館者数を伸ばしている。本市最大のイベントである「春の神武祭」は期間を一週間に拡大し内容も充実させたため、奈良の三大祭として注目を集めつつある。</p>	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄
		実績	目標	実績	目標	目標	目標	
指標の推移	施策指標① (成果指標)	観光客総数	3,977,817	4,000,000	4,144,101	4,200,000	4,300,000	4,500,000
	施策指標② (成果指標)	宿泊施設の宿泊者数	105,838	110,000	116,571	120,000	130,000	140,000
	施策指標③ (成果指標)	ボランティアガイド案内数	344	350	346	380	410	490
	施策指標④ (成果指標)							
	施策指標⑤ (成果指標)							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 (直接事業費)(a)		163,899	168,918	165,796	156,804		
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0		
		国や県からの補助金その他	0	650	25,118	361		
	(a) - (b) = 一般財源		163,899	168,268	140,678	156,443		
	正職員	従事者数 (単位:人)	5.90	6.40	6.35	5.45		
		人件費(c)	36,598	39,501	39,192	33,637		
トータルコスト (a) + (c)		200,497	208,419	204,988	190,441			

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	本市主要イベントの多くは、1万人以上の来場者数を誇っているが近隣市町村からのものが多く、消費を伴う県外からの誘客に努めなければならない。しかしながら文化財・歴史遺産を利用しているイベントは充実しており、本市が歴史文化豊かで美しい町であるというイメージの確立に資すること大である。また、観光交流センターを中心に広域的な観光展開に努めており、中南和の拠点都市としての本市の役割・重要性を高めている。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	市内外から多くの観光客が訪れることによって様々な交流が生まれ、自分の住む町が特別であるという意識を住民が持つことができる。そしてわが町に誇りを持つようになり、シビックプライド・愛郷心が生まれる。地域の住民のこの意識付けがまち起し・地域振興に関するすべての基本であるといえる。橿原ブランドの確立は、転入の増加、転出の抑制に繋がるとともに、地価の維持・上昇、賃貸住宅家賃にも好影響を与える。				

6. 施策の課題

この施策の課題	世界遺産登録に向けて、市として全庁的に一貫した戦略性とブランドイメージの確立が必要であり、各事業の連携的、系統的な取組みが一層求められている。中南和地域の観光資源の一体的・広域的な活用について、その具体的な方法を確立しなければならない。本市の観光振興事業については、イベント中心になっているが、宿泊を伴う観光客の誘致にはHPの充実や魅力のある観光ルートの開発、効果的な広報活動など地道な取組にも重心を移していくことが必要である。自転車道、駐車場の整備、案内板・説明板の設置などハード面の整備も必要と思われる。観光振興とともに観光消費を増加させる仕組みも必要である。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	「春の神武祭」「橿原夢の森フェスティバル」といった本市主催のイベントは、内容を大幅に改善することによってそれぞれ来訪者数を加速度的に増やしている。また、マスコミや交通事業者なども積極的に連携することでイベントの誘致・支援に取り組み、本市への誘客に努めている。本市の知名度を全国的なものに引き上げるため、総合的・戦略的な観光宣伝の展開を検討していくことが必要となっている。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	平成25年は横大路1400年記念歴史年を観光客来訪のきっかけとして最大限に利用し、冠事業を実施した。中南和地域の自治体と協力した一体的な観光展開について、具体的に事業に取り組んでいくものとする。 既存の観光資源を十分に活用しきれていない面があるので、歴史的な由縁などをより深く研究し、観光客の興味をひくような魅力的なPR方法を検証する。また、本市の全国的な知名度を上げるため、奈良観光について関心の高い首都圏や中京圏において、継続的かつ内容の濃い広報活動の展開を検討するものとする。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

		この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)		施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH25決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売促進・管理 ・冊子「藤原京と大宝律令」、「榎原いろはかるた」(平成14年度作成) ・古道図書「歴史の道を行く」(平成20年度作成) ・古道絵はがき(平成23年度作成) ●市政情報発信事業 ・放送媒体の利用によるPR ・市政情報についてのラジオ特別番組の制作及び放送 	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	D
	榎原の魅力発信事業 (ソフト(任意))		900 (千円)			
2	観光課	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミや電鉄・バス会社、旅行社、地域のNPO団体などが実施するウォークやシンポジウムといったイベントを誘致する。 ・奈良県中中和地域の市町村と連携し、観光情報の発信や普及啓発を行う。 ・フィルムコミッション活動を活発に行い、テレビドラマや映画のロケ地として、本市が舞台となるようにはたらきかけていく。 ・国土交通省や観光庁の補助事業に積極的に応募していく。 	1 拡大する	a	見直しながらかつ続ける	B
	イベント誘致事業 (ソフト(任意))		560 (千円)			
3	観光課	(一社)榎原市観光協会が、観光の担い手となるよう協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○榎原市観光協会運営補助金 ○榎原市観光事業補助金(観光ボランティアガイド運営事業・榎原市観光親善大使「さらら姫」の選出並びに運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業等)	1 拡大する	b	見直しながらかつ続ける	C
	(一社)観光協会運営・事業助成補助事業 (ソフト(任意))		22,088 (千円)			
4	観光課	各種行事助成事業 市内各地で開催される行事を①広域的な地域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つのカテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やスケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交流センターLEDビジョンを通じてPRする。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	C
	各種行事補助金交付事業 (ソフト(任意))		3,942 (千円)			
5	観光課	複合施設である観光交流センターを管理運営する。 全館の建物管理と観光センター(1・2階)の運営を行う。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	
	榎原市観光交流センター管理運営事業 (内部管理・維持管理)		48,655 (千円)			
6	観光課	1. 「春の神武祭」行事助成事業 毎年4月行われる「春の神武祭」の実施団体である春の神武祭り実行委員会に事業費の助成を行う。 2. 「榎原夢の森フェスティバル」行事助成事業 毎年10月に行われる夢の森フェスティバルの実施団体である榎原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行う。 3. 藤原京イベント開催事業 95年に開催された「ロマンシア藤原京」の後継事業として榎原商工会議所に事務局を置く実行委員会が開催してきた「ムーンライト藤原京」を平成23年度より本市の主催事業として実施する。夜間から昼間のイベントとし、家族連れを対象に藤原宮跡という立地を活かした巨大迷路を開催。	3 縮小する	b	見直しながらかつ続ける	B
	観光イベント実施事業 (ソフト(任意))		40,047 (千円)			
7	観光課	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話、メール等での観光案内や観光問い合わせの回答 ・観光プロモーション ・観光マスコットキャラクターによる観光PR ・観光パンフレットの作成配布 ・大都市圏での誘客事業 ・観光商品の創生(H25は横大路1400年事業) ・大和三山の眺望確保(H25は畝傍山) ・中中和の観光情報発信 ・榎原のみやげ物の普及 ・その他、書籍等の販売、各種加盟団体への参加、調査研究等 	1 拡大する	a	拡大する	A
	観光啓発事業 (ソフト(任意))		38,460 (千円)			
8	観光課	①案内道標、観光案内板、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の配置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原宮跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務	1 拡大する	a	拡大する	
	観光利便施設事業 (内部管理・維持管理)		11,144 (千円)			

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月6日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	檀原の魅力発信事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	庵坂 和史					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	予算事業名	企画調整事務費									
	事業の開始年度	平成	14	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
	対象	市民・県民・国民									
	事業の 目的	檀原の魅力を発信することで、檀原に関心を持つ人や、来訪者の増加を図る。 また、市民の方には、檀原市が有する歴史遺産の素晴らしさを再認識してもらう。			事業の 内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売促進・管理 ・冊子「藤原京と大宝律令」、「檀原いろはかるた」(平成14年度作成) ・古道図書「歴史の道を行く」(平成20年度作成) ・古道絵はがき(平成23年度作成) ●市政情報発信事業 ・放送媒体の利用によるPR ・市政情報についてのラジオ特別番組の制作及び放送 					
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	市の魅力をPRする事業であるため、市が積極的に取り組んでいくべきものである。							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	書籍等の販売を中止すると、当初見込んだ収益が得られなくなる上に、在庫を抱えてしまうことになる。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	販売数			631	700	565	600	600	600	
	活動指標 ①	イベント販売回数			5	5	1	3	3	3	
	活動指標 ②	販売店舗数			9	9	9	8	8	8	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			99	800	900	800			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			99	800	900	800			
正職員		従事者数(単位:人)			0.10	0.10	0.15	0.15			
		人件費(c)			620	617	926	926			
トータルコスト(a)+(c)			719	1,417	1,826	1,726					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	古道図書、「藤原京と大宝律令」及び古道絵はがきについては、現在も継続的に売れている。市政情報発信業務については、年間2回のラジオ特別番組を聴取者の多い時間帯に放送しており広範囲への情報発信が実現できている。						
評価	効率性評価	現時点での有効性を評価してください	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	市外の人に市の歴史・史跡等に関心を持ってもらうことで、来訪者の増加につながり、観光の振興に寄与すると考えられる。						
ACTION	修正行動	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	現時点で効率が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率が低く、大幅な改善が必要		
		説明	販売を促進していくことで、更なる歳入の増加をはかる。ラジオ番組制作費用について交渉により経費の削減に努めていく。						
ACTION	修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	書店等での販売を継続するとともに、広報を行うことで販売促進に努める。市政情報発信業務については、番組の広報を活発に行い聴取者数の増加を図る。また、そのことにより、広く橿原市をPRできるとともに、来訪者の増加にもつながると考えられる。						
		この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する	課内優先度
		説明	市が実施するイベント等や書店での販売を引き続き行うことで、今後も販売を継続していく。市政情報発信業務については、コストの削減と有効性の向上に努めながら継続して取り組んでいく。						

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

PLAN
計画

事務事業名	イベント誘致事業						
担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興				
予算事業名	観光対策費						
事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	観光客及び一般の人			事業の内容説明	・マスコミや電鉄・バス会社、旅行社、地域のNPO団体などが実施するウォークやシンポジウムといったイベントを誘致する。 ・奈良県中南和地域の市町村と連携し、観光情報の発信や普及啓発を行う。 ・フィルムコミッション活動を活発に行い、テレビドラマや映画のロケ地として、本市が舞台となるようにはたらきかけていく。 ・国土交通省や観光庁の補助事業に積極的に応募していく。		
事業の目的	市以外の多様な主体と連携してイベント等に取り組むことで、本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールし、もって多くの潜在的観光客が本市の観光資源に関心を持ち、本市を観光に訪れることを目的とする。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業				
		2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
市の関与の必要性を評価してください	説明	市は人的な応援・支援で積極的に協力がするが、財政的な負担はほとんど行わない。					
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
		説明	マスコミ等が実施する事業については、広報効果が大きいので、事業を実施しないことによる橿原市の露出は減ることになる。				

DO
実施

指標の推移	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	観光客総数	3,977,817	4,000,000	4,144,101	4,200,000	4,300,000	4,500,000
活動指標①	関連イベント実施件数	12	13	13	13	14	15
活動指標②							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出(直接事業費)(a)		100	500	560	500	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		100	500	560	500	
	正職員	従事者数(単位:人)	0.50	0.50	0.45	0.50	
		人件費(c)	3,102	3,086	2,777	3,086	
	トータルコスト(a)+(c)		3,202	3,586	3,337	3,586	
単位当たりコスト	計算式等 ()/()						
備考(これまでの実績等)	MBSラジオウォーク(近鉄)、歴史フェスティバル(奈良新聞)、地域連携ウォーク(歴史街道推進協議会)、HANARART等						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	急激な誘客効果は望めないが、事業の積み重ねにより、本市の知名度が上がり、観光客が増加すると考える。業者間の情報伝達により新たな事業展開や事業手法が取り入れやすくなる。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	多様な主体と連携した観光啓発は、観光行政の根幹をなす事業として、観光の振興に大きく貢献している。						
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要		
			説明	ほとんどが財政的な負担を伴わない事業であるので軽減の余地はない。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		予算措置が伴わない事業であるので、このような内部の統計数値としては注目を集めることが少ないが、事業そのものの効果は大きい。マスコミや諸団体との繋がりを強くすることで、事業を誘致し、観光客を増加させる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 情報収集方法や事業誘致のノウハウを蓄積する。						

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	(一社)観光協会運営・事業助成補助事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	予算事業名	観光対策費									
	事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	一般社団法人 檀原市観光協会			事業の内容説明	(一社)檀原市観光協会が、観光の担い手となるよう協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○檀原市観光協会運営補助金 ○檀原市観光事業補助金(観光ボランティアガイド運営事業・檀原市観光親善大使「さらら姫」の選出並びに運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業等)					
	事業の目的	(一社)檀原市観光協会が、観光立市を目指す檀原市にふさわしい事業を展開する観光の担い手となるとともに、協会事業により多くの観光客を集客することを目的とする。									
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	・檀原市補助金等交付規則 ・観光施策における行政が観光企画、協会が事業実施という役割分担を進めていくうえで、協会の財政基盤が整っていない現状では、市の関与が必要である。							
市の関与の必要性を評価してください		やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	財政基盤が弱い協会では、人員削減、事業縮小となり、観光の担い手としての役割を果たせない。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度		
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	協会事業数		32	35	30	35	35	40		
	活動指標①	観光協会HPアクセス件数		53,000	55,000	73,000	80,000	100,000	110,000		
	活動指標②	ボランティアガイド案内内容数		8,329	9,000	7,466	8,000	9,000	10,000		
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			46,105	22,112	22,088	30,562			
		歳入(b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			46,105	22,112	22,088	30,562			
正職員		従事者数(単位:人)			0.20	0.35	0.45	0.40			
		人件費(c)			1,241	2,160	2,777	2,469			
トータルコスト(a)+(c)			47,346	24,272	24,865	33,031					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考(これまでの実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	人員面での体制強化が図られたことから、急激な発展は望めないが成果は着実に向上している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	協会は、本市観光施策における事業(誘客事業、観光ボランティア事業、観光親善大使「さらら姫」事業、春の神武祭、藤原京イベント等)の担い手として観光振興に大きく寄与している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
		説明	協会事業の拡大等により、協会員数の増加や事業収益などが図られれば補助の比率を下げることとなるが現状では難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		協会が本市の観光事業の担い手という役割分担を進めていくうえで、さらに多彩な観光情報の発信、観光イベントの開催などを行うことで、より多くの観光客を集め、協会会員数の増加や事業収益の獲得へと結びつけることが可能となり、その結果、財源面での協会の自立を進めることになる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する プロパー職員の増員が図られ、既存事業を元に、時流に応じ変化に富んだ業務を実施し、観光交流センターを基盤とした情報発信を行っていく。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	各種行事補助金交付事業							
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
	予算事業名	各種行事助成事業費							
	事業の開始年度	昭和	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
	対象	広域的地域催行事、伝統的芸能行事、歴史的顕彰行事 (春の神武祭、夢の森フェスティバルを除く)		事業の 内容説明	各種行事助成事業 市内各地で開催される行事を①広域的 地域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つの カテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成 を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やス ケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交 流センターLEDビジョンを通じてPRする。				
	事業の 目的	檀原市内で開催される広域的地域催行事、伝統的芸能 行事、歴史的顕彰行事を保存し、後世に継承することを 目的とし、事業費の助成を行う。							
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民 ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
			説明	・檀原市補助金等交付規則 ・市内各地域の伝統的な行事を保存し、後世に継承することは市の責務である。 ・事業費の助成を行うことで行事運営を支援する。					
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい		やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	・各地域で伝統的行事等への参加者(特に児童)の減少や実施団体の高齢化で事業費の捻出が困難になる ことや見学者の増加により事業開催費のみならず見学者への対応にかかる警備費等の経費も大きな負担と なっていることから、資金難により行事が存続できなくなる可能性がある。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
	成果指標	伝統的行事見学者数(ほうらんや+練供養)		5,500	5,500	6,000	6,000	6,200	6,500
	活動指標 ①	行事開催件数(広域的地域催行事を除く)		13	13	13	13	13	13
	活動指標 ②								
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		3,911	3,942	3,942	4,104		
		歳入 (b)	受益者負担額						
			国県補助金等その他						
		(a) - (b) = 一般財源		3,911	3,942	3,942	4,104		
正職員		従事者数(単位:人)	0.65	0.90	0.65	0.65			
		人件費(c)	4,032	5,555	4,012	4,012			
トータルコスト(a)+(c)		7,943	9,497	7,954	8,116				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()								
備考 (これまでの 実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	・成果指標の向上のため、行事案内や開催スケジュールを各種媒体を通じて告知することにより県外からの見学者が増加している傾向にある。 ・一部の行事は知名度も上がり、見学者が増加する傾向にある反面、少子高齢化の影響で行事の継承が困難になりつつある行事もある。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	地域の伝統的な文化の継承に寄与するとともに、行事等の内容、開催スケジュールの告知の強化により県外からの見学者も増加し、市の観光振興に寄与している。							
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
			説明	実施団体の構成員の減少や財政難の中、行事存続のためには助成額の減額は難しいが、補助対象経費の項目については精査する必要がある。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		単に助成するだけでなく、主催者からの情報収集を更に密にして、きめ細やかな催事情報を発信することで、本市への誘客に繋げる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		D	
説明			・事業費の一部として助成を継続して行っていく。 ・行事内容や開催スケジュールの告知を各種媒体を通じて行うことにより、本市の伝統的行事等への理解を深め保存や継承を促していく。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	檀原市観光交流センター管理運営事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	予算事業名	観光交流センター管理運営費									
	事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	檀原市観光交流センター									
	事業の目的	大和八木駅前を広域的な観光拠点とすることで、観光客の利便性を向上すると共に、市民交流の場として賑わいを創出することを目的とする。		事業の内容説明	複合施設である観光交流センターを管理運営する。全館の建物管理と観光センター(1・2階)の運営を行う。						
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)								
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明									
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	利用者数(全館)			258,234	270,000	275,600	280,000	290,000	300,000	
	活動指標①										
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			49,482	48,655	48,655	50,047			
		歳入(b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			49,482	48,655	48,655	50,047			
正職員		従事者数(単位:人)			0.35	0.45	0.30	0.30			
		人件費(c)			2,171	2,777	1,852	1,852			
トータルコスト(a)+(c)			51,653	51,432	50,507	51,899					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考(これまでの実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	平成23年度4月末の開館以来、想定数以上の利用者があり、一定の成果があがっている。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	橿原市に公共交通機関やバスツアー等でこられる観光客の玄関口として機能は高い。						
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要		
			説明	指定管理者による施設管理によりコスト低減に努めているが、今後は修繕や改良等が必要であり、光熱水費の単価上昇などもあることから削減の余地はあまり無い。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		<ul style="list-style-type: none"> ・開館後3年が経過したので、今までの業務や取り組みを見直し、より効果的な施設運営の手法を確立する。 ・2階イベントスペースでの賑わいの創出や大型LEDビジョンでの観光PR、1階観光センターと物産コーナーの展開等を通して、橿原市を中心に広く奈良県中中和地域の普及啓発や連携事業を実施する。 						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		
説明		引き続き、本市の観光や地域住民の交流の場として賑わいを創出し、快適に利用していただける施設整備を行う。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	観光イベント実施事業								
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
	予算事業名	各種行事助成事業費・観光対策費								
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度			
	対象	市民および市外者		事業の 内容説明	1. 「春の神武祭」行事助成事業 毎年4月行われる「春の神武祭」の実施団体である春の神武祭り実行委員会に事業費の助成を行う。 2. 「榎原夢の森フェスティバル」行事助成事業 毎年10月に行われる夢の森フェスティバルの実施団体である榎原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行う。 3. 藤原京イベント開催事業 95年に開催された「ロマンビア藤原京」の後継事業として榎原商工会議所に事務局を置く実行委員会が開催してきた「ムーンライト藤原京」を平成23年度より本市の主催事業として実施する。夜間から昼間のイベントとし、家族連れを対象に藤原宮跡という立地を活かした巨大迷路を開催。					
	事業の 目的	広域的地域催行事を通じて榎原市の賑わいを創出し、観光客の誘致につなげることを目的とする。								
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
			説明	「春の神武祭」は、奈良の三大祭りという位置づけであり、また、藤原京イベント開催事業については榎原市が掲げている世界遺産登録推進事業ともリンクする事業であるため企画段階からの関与、事業費の助成が望ましい。大規模イベントのため、民間団体が引き継ぐのは困難である。						
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい		やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
説明	「春の神武祭」「夢の森フェスティバル」は榎原市を代表する春・秋の一大イベントであって、予算的に市の補助金が大部を占めているので、助成を取り止めると実施が立ちいかない。									
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	来場者数(神武祭+夢フェス+ラビリンス)		143,000	150,000	153,000	160,000	165,000	170,000	
	活動指標 ①	神武祭チラシ配布数		61,000	60,000	86,000	122,500	130,000	140,000	
	活動指標 ②	夢フェス実行委員会回数(幹事会回数)		7	7	7	7	7	7	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)		41,694	42,410	40,047	32,920			
		歳入 (b)	受益者負担額							
			国県補助金等その他							
		(a) - (b) = 一般財源		41,694	42,410	40,047	32,920			
正職員		従事者数(単位:人)		1.35	1.65	1.40	1.20			
		人件費(c)		8,374	10,184	8,641	7,406			
トータルコスト(a)+(c)		50,068	52,594	48,688	40,326					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	・「藤原京イベント開催事業」は、3年連続の巨大迷路ということもあり11,000人の来場で前年を下回った。 ・「夢の森フェスティバル」は、2日間で75,000人の来場があった。 ・「春の神武祭」は期間中50,000人の来場があった。							
評価	効率性評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
				説明	広域から集客する催事として本市を訪れるきっかけとなっていることから、観光の振興に大きく貢献している。					
評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4	現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要		
				説明	これまで最小限の費用で最大限の効果が得られるよう取り組んでいることから、コストの削減はそのまま催事の魅力の低下につながる。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		広域から集客する催事であることから、催事の魅力を更に高めるとともに、告知の手段や範囲を拡大することで、遠方からの宿泊を伴う参加者の増加に繋げる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	3	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	B
説明			春の神武祭は、橿原の春の代名詞となり、奈良の三大祭に数えられるよう、更に内容の充実を図り告知を充実する。藤原京ラビリンスは巨大迷路がマンネリ化し来場者数も減少していることから一旦休止し、新たな藤原京のPRイベントを模索する。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	観光啓発事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	予算事業名	観光対策費									
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度				
	対象	観光客及び一般の人		事業の 内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話、メール等での観光案内や観光問い合わせの回答 ・観光プロモーション ・観光マスコットキャラクターによる観光PR ・観光パンフレットの作成配布 ・大都市圏での誘客事業 ・観光商品の創生(H25は横大路1400年事業) ・大和三山の眺望確保(H25は畝傍山) ・中南和の観光情報発信 ・橿原のみやげ物の普及 ・その他、書籍等の販売、各種加盟団体への参加、調査研究等 						
	事業の 目的	本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールし、もって多くの潜在的観光客が本市の観光資源に関心を持ち、観光に訪れることを目的とする。									
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		市が企画し、観光協会が実施するという役割分担のもと観光事業を進めている。									
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	観光立市を掲げている本市において、事業を取りやめることで誘客が滞り、観光客が減少する。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	観光客総数			3,977,817	4,000,000	4,144,101	4,200,000	4,300,000	4,500,000	
	活動指標 ①	観光パンフレット配布数			116,630	120,000	93,555	100,000	105,000	120,000	
	活動指標 ②	誘客(委託)事業実施件数			4	1	3	4	5	6	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			12,355	38,498	38,460	24,016			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他				650	25,118	361		
		(a) - (b) = 一般財源			12,355	37,848	13,342	23,655			
正職員		従事者数(単位:人)			2.00	1.70	2.40	1.90			
		人件費(c)			12,406	10,492	14,813	11,727			
トータルコスト(a)+(c)			24,761	48,990	53,273	35,743					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	急激な誘客効果は望めないが、事業の積み重ねにより、観光客が増加すると考える。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	誘客のための観光啓発が観光行政の根幹をなす事業であることから、観光の振興に大きく貢献している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
		説明	事業実施にあたっては、単に金額の多寡のみで業務委託できないため、コストの低減は難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		大都市圏をはじめ全国的な観光PRを展開するため、首都圏でのシンポジウムの開催、大都市圏での駅貼りポスターの掲示、月刊雑誌への記事広告の掲載、観光協会観光HPのリニューアル、大阪に滞在する外国人の誘客等を連動させて効果的に実施することで、大都市圏の潜在的観光客に本市来訪の動機付けを行い、宿泊の伴う誘客へと結びつける。また、引き続き、中南和広域観光推進協議会により中南和地域の一体的な観光の魅力を発信することで、橿原が中南和観光の拠点となることを目指す。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	A
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 経済効果の高い宿泊を伴う誘客を進めるため、主に首都圏、中京圏をターゲットにした効果的な観光啓発を実施する。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	観光利便施設事業							
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
	予算事業名	観光対策費							
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
	対象	観光施設		事業の 内容説明	①案内道標、観光案内板、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の配置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原宮跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務				
	事業の 目的	快適な観光を楽しめるよう観光客の利便性の向上を図ることを目的とする。							
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	説明							
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
	成果指標	施設案内数(夢ら咲長屋+藤原資料室+奈文研展示室)		36,555	37,000	33,880	35,000	36,000	38,000
	活動指標 ①	案内道標設置数		123	123	123	123	123	123
	活動指標 ②								
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		10,153	12,001	11,144	13,855		
		歳入 (b)	受益者負担額						
			国県補助金等その他						
		(a) - (b) = 一般財源		10,153	12,001	11,144	13,855		
正職員		従事者数(単位:人)	0.75	0.75	0.55	0.35			
		人件費(c)	4,652	4,629	3,395	2,160			
トータルコスト(a)+(c)		14,805	16,630	14,539	16,015				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()								
備考 (これまでの 実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	施設での観光案内件数は伸びていることから、成果の向上が認められる。観光道標については、一定数の整備が進んでいる。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	観光客が迷わず目的地に着き、専門ガイドによる十分な説明を受け、清潔なトイレを利用できることで、観光の振興に大きく貢献する。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	3 効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	トイレの管理や案内所での案内は、ボランティアの要素が大きく、コスト低減の余地はない。また、案内道標は老朽化して判読できないものが増えつつあり、抜本的な修繕が必要となっている。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		観光道標、観光案内板、道路標識については、老朽化が進んだものから順に、景観に溶け込み、わかりやすさに重点を置いた整備を継続して実施する。特に案内道標については、経年劣化により判読困難なものが多いことから、多言語化したシートの全数張替えをH26から3カ年で実施して、インバウンドにも対応する。観光施設については、今後も適正な管理に努めると共に、不具合が生じた場合には、即対応できるよう引き続き施設の状況を常に把握する。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明		・施設の適正な維持管理や運営を継続して行うと共に、観光道標の老朽化したものより順次標識を整備し、わかりやすい観光案内を目指す。								